

UIFA JAPON D'AUJOURD'HUI

今日の話題 UIFA JAPON第3回総会・記念講演特集

■UIFA JAPON第3回総会と記念講演

1995年6月11日(土) 科学技術館にて総会と記念講演を開いた。盛況なるご出席であった。総会は吉田あこ氏の議長で無事終了。講演には、会員以外の方々の参加もあり会場は満員。講演後のパーティーはスカッフ氏、川内氏を囲みさらに熱心に質問をする者あり、なかなかの熱気であった。司会は渡辺喜代美。

* 記念講演の記 *

「サンフランシスコにおけるアクセスへの取り組み」

さて、記念講演の幕開けは、とんだバリアとの遭遇から始まった。講師のリチャード・スカッフ氏の車いすが、科学技術館のトイレのドアを通過出来ないというバリアとそのバリアに無関心な人々に会うという、アクシデントから始まった。公共的空間である会場にて、遭遇した象徴的できごとは、建築のジャンルで仕事をする者として、赤面の思いである。この件については、早々に館長あてに改善要請をした。

さて、講演の内容は、実に明快なアクセスへの取り組みの具体的な進展であった。1979年リチャード・スカッフ氏がケガをして車いすに頼らざるを得なくなった時代には、アメリカの建築家たちもADA法には考えも及ばなかった。彼は、車いす生活に入った後、障害をもつ立場から発言し続けたが、具体化には進展しなかった。そこで、新しい考え方をもつプログラムをたずさえて公共部門にはいる。サンフランシスコ市は、リチャードプログラムを受け入れる。アクセス諮問特別専門委員会がつくられた。この委員会は、役人と障害者の間にあるバリアを取り除く大きな効果となった。建築的バリアは、人間のバリアがあっては解決にならない。人間の尊厳、権利の問題である。隔離の政策から、人間の尊厳を傷つけない政策が、アクセシブル(Accessible)への取り組みの最前提である。市は、リチャードプログラムをみて、いままで多くの見落としがあったことに気が付いた。

あらゆる障害、目、耳、身体、高齢などへの心あるディテールへの検証と実施への対応は、実に説得力ある内容。生活の範囲も街にとどまらず、キャンプ場やプレイグランドにいたるまで自由なる行動と交流をうながしている。アメリカにおけるアクセシブルへの動向は、明らかに進展している。しかし、スカッフ氏は言う。ADAが出来て終わるのでなく、生きものだから成長をうながさねばならない。建築やデザイン、ランドスケープなどのさまざまな分野の人々が知恵をだしあって高め、創っていくことが大切だと。

この長時間の密度の高い通訳を実に見事に、担当してくれた日本の川内美彦氏に敬意を表したい。

なお、講演記録は、近日中に完成の予定。頒布は、実費経費程度となろう。

最後に、日本における全国14都市のキャラバンの結果、車いすのスカッフ氏、川内氏を襲ったバリアについては、寺尾会員他のシンポジウム参加記をお読みいただきたい。何をなすべきか。質問の時は終わった。こころして実行の時である。(記:渡辺喜代美)

—— 科学技術館の施設改善要請!!! ——

7月7日、UIFA JAPONは、6月11日の総会会場である(財)日本科学技術振興財団 鶴田常務理事あて、施設改善要請を出した。車いす用トイレの設置と入口の改善についてである。不十分な点は改善したいとの回答。1996後半には改修したいと鶴田理事。訪問代表は、理事山田規矩子氏。

* 記念講演参加者の記 *

2回のシンポジウムで目覚めたこと 寺尾信子

昨年と今年の2回のシンポジウムは、私にとってショックなものでした。昨年、川内美彦氏の講演を聴いてから後、「福祉」や「障害者」という言葉をむやみに使えなくなり、それらを見聞きする度に、もっと適切な日本語はないものか、障害のない人々が障害

UIFA JAPON 事務局

〒105 東京都港区芝公園3-1-8
芝公園アネックスビル棟生活構造研究所内
TEL 03-3459-0221

■広報だより

情報の「ネットワークフォーラム」へ掲載を募集
——情報の「ネットワークフォーラム」へ掲載を募集——
ニュースの発行は5月、7月、9月、11月、1月、3月の年6回です。毎月発行月の25日には、会員に配付の予定で段取りされています。お寄せ下さる情報は、発行月の前月の中旬ごろに広報担当まで。
——Salon d'UIFA JAPON——
「移動式サロン、やとわれマダム式サロン」の開設検討中。
マダム募集要綱等詳細は次号で。乞うご期待。
——第7回UIFA JAPON海外交流会——
場所：芸術劇場5階会議室、日時：7月22日(土) 14:00～
講師：マレラ・ベルハーゲン氏 訳：ポーリン・ボスマン氏
テーマ：ワグの都市計画と住宅問題！オランダすてき！！

をもった人々にあたかも「恵む」ような立場にたつ意識を捨て去らなければ、と強く感じるようになりました。

今年のリチャード・スカッフ氏の講演は、全国14都市の講演で、各都市のホテルは車いすで使える客室が1室以下で、そのために同行の川内氏は、常にサニタールームを這って使うことを余儀なくされ、2都市では2人とも這って使うことを余儀なくされた。これをあなた方に言うのは、あなた方建築家は率先してそのような事態を防ぐ行動をとる立場にあることを取って訴えたいからだといった言葉が強く心に響きました。(東京都在住・寺尾三上建築事務所)

UIFA・総会、記念講演に参加して 高橋和子

私が、始めて科学技術館を訪れたのは、確か今から30数年前、学生時代前後だったかと思います。もちろんその頃には、高齢社会とか、バリアフリーとかいう言葉ありませんでした。今日この会場にきて講演を聴き、この建物をつくづく見直してみて、今日の議論とあまりにもミスマッチなのにあらためて驚きました。この場所を選択された幹事諸姉の意図は、ある意味ではとても良い資料を私達に提供してくれたのかなと思いました。この科学技術館が建てられたあの当時は、まだ、私達建築にたずさわる者も、政治家も企業人も建築の質を問うよりも建築という器を提供することにしか気が向いていなかったかと思います。でもそれは、しかたのないことかも知れません。日本には、欧米とちがって建築を社会資本と考える風習はなかったのですから。今日の講演の内容のようなことが大きく日本の育っていくには、やはり当事者の力と、私達建築に携わる者の意識が強く働いて行かないとならないと思いました。丁度、近代建築から、今に至るまで、橋渡しの時期に生きてきた私達が、高齢社会の当事者になるのは、最早、今すぐのことなのですから。

(川崎市在住・住友軽金属工業株式会社勤務)

記念講演に参加して

柏原雪子

田舎に住む私の母は、高齢を迎え、足が悪く、長い時間歩けません。私の住む横浜には来たがりません。それより姉の住むイギリスには、遠いにもかかわらず行きたがります。それは、車いすでのアクセスが良い事もさることながら、多くの車いすの人々が実に楽しそうに、イキイキとしていらっしやるからの様です。車いすが特別ではなく、あたりまえの社会だからです。卑屈にならないのです。

今回の講演では、ハード面のアクセスの取組みはもちろんですが、それが福祉の問題ではなく、人間としての尊厳をもった生き方の権利だと語られたのが印象的でした。サンフランシスコも横浜同様坂の多い街と聞いています。一度訪れたいくなりました。そして、私の母が、喜んで横浜に来たいという日のために、アクセスへの取組みの第一歩をふみだす気になりました。

(横浜市在住・おがびス1級建築士事務所勤務)

■ネットワークフォーラム

【UIFA 韓・日国際交流】

日本・韓国の女性建築家等の交流シンポジウム。韓国ソウルにて開催される。

○日時：1995年9月30日

○場所：ソウル

○テーマ：「21世紀の居住文化・女性が主役」

○講演：韓国：池淳、金鎮愛、超成龍各氏

日本：UIFA JAPON韓日シンポジウムプロジェクトによる発表等

日本からの参加者ツアー等別途検討中。乞うご期待！

【女性技術者フォーラム】

○10月6日(金) 詳細はおってお知らせします。

【女性建築士委員会企画—95第7回公開シンポジウム】

○1995年11月18日(土) 13:00から

○場所：建築会館ホール

○テーマ：「東京に住む」姦・安心について考える(仮)